

## 平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 兵庫県教育委員会 】

### 1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域 第 1 学年 ( 物語文 )	
(2) 単元名または活動名 「 物語文 『オツベルと象』 」	
(3) 対象生徒の実態 ( 2 人 )	
A	第 1 学年 国籍 ( フィリピン ) 母語 ( フィリピノ語 ) 在籍年数 ( 2 か月 ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常会話に大きな問題はない。誤りはあるものの、ある程度まとまりをもった文章を読んだり書いたりできる。未習得の漢字が多く語彙数も少ないため、長い文章の内容理解には時間がかかる。</li> <li>・ 取り出し授業。</li> <li>・ 自発的に家で漢字を書いて練習するなど、学習意欲は高いが、間違っ覚えていたこともある。両親はともにフィリピン人で、学習に協力的である。家庭では日本語、フィリピン語、英語の三つの言語を話している。</li> </ul>
	第 1 学年 国籍 ( フィリピン ) 母語 ( 英語 ) 在籍年数 ( 2 か月 ) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡単な日常会話に大きな問題はないが、知らない言葉や表現がまだ多く、身の回りの出来事等を詳しく説明する力はまだ不十分である。A 生徒と同様、語彙と漢字の習得に課題があり、長い文章の内容理解には時間がかかる。</li> <li>・ 取り出し授業。</li> <li>・ 両親とも学習に対して協力的ではあるが、日本語話者ではない。家で漢字を正しく覚えて小テストに臨むなど、熱心に家庭学習に取り組んでいる。</li> </ul>
(4) 目標 ◇場面ごとにオツベルと白象の心の動きや考え方を読み取ることができる。 ◇オツベルにとって大切なもの、白象にとって大切なものは何かをとらえ、自分なりの考えをもつことができる。 ◆音読が正しくできる。 ◆漢字の読み方、新しい語句やその意味を理解し、重要なものについては短文を作ることができる。	

## 2 学習活動

指導者（日本語科担当）		指導補助者（なし）
全体の時間数		15 時間
学習活動の状況、指導内容	活動方法	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
① 前時の学習をふり返る  ② 第一日曜 白象がやってくる場面の内容をとらえる。  ③ 今回の学習をふり返る	取り出し	◇前時の学習を思い出させる。 ◆オツベルの仕事場はどんなところですか。 ◆百姓たちは仕事場で何をしていますか。オツベルは何をしていますか。  <進め方> 1. ◇生徒に音読させる。（1回目） 2. ◇新しい語句や表現の意味を確かめさせる。 ◆単語の用例は、学校での場面などを取り入れてできるだけ身近な内容のものにし、理解しやすいようにする。（※学習辞典に掲載されている用例ではわからないものが多い。） 3. ◇教師がゆっくりと範読する。 ◆生徒は意味を考えながら聞く。 4. ◇内容理解のための Q&A をする。 例) ◆～の気持ちがわかるころはどこですか。 ◆この文からどんなことがわかりましたか。 ◆～のは、どうしてですか。 ～からです。 ◆～のとき、～はどんなことを考えていましたか。 ◆「・・・」とあります。〇〇さん、やってみてください。 5. ◇ワークシートを使い、内容を整理させる。 ◆語句が正しく使えているか、書き抜きしている箇所は適切か、確認する。 6. ◇生徒に音読させる。（2回目） ◆場面に合った読み方を工夫させる。  ◇今日の学習を終えて、わかったことや感想を発表させる。 ◆わかったことや感想が、他の人にうまく伝わるように話す。

### 3 成果

#### ① 対象児童生徒に対する成果

- ・ルビ、注釈付きの本文プリントで音読練習をくり返すうちに、漢字の読み方はほぼ完全にできるようになり、本読みのなめらかさも増した。
- ・ワークシートに記入することで、話の展開が理解しやすくなった。また正しく書く練習にもなった。
- ・オツベルと白象の心の動きがわかる場所を見つけさせ、そこからわかったことや自分の思ったことを自由に発表させることで、白象とオツベルの心情の変化を読み取ることができた。
- ・「オツベルと象」での漢字学習は「読み」ができればよいとしたが、毎日の本読みであまり苦勞なく読めるようになったので、「書き」についても学習を進めることができた。

#### ② その他（他の在籍学級の児童や学校・保護者等学習環境に対する波及効果）

- ・言葉の意味を知ることと、本文での使われ方を知るとは同一時間になるようにした。語句の意味調べが終わったからと言って、それが使われている本文の内容理解を次回に回すことがないように気をつけた。わからない言葉が多い外国人生徒にとっては、一つの大切な支援であると考えられる。

### 4 課題

○外国人生徒にとっては、学習辞典であっても単語の意味や用例が理解できないものが多く、わかりやすい日本語に言い換える必要がある。また、いくつか意味がある場合は、本文での使われ方はどれが適切なのか、確認していくことも大切である。

○新出単語の意味調べをすべて生徒にさせると、時間もかかり生徒の負担も大きい。今回ワークシートを用い、意味調べを

A：絵や写真、実物で理解させるもの

B：自分で辞書を引いて調べるもの

C：教師がワークシートに意味を載せておくもの

の三種類に分け、時間と負担を減らした。しかし、いずれは自分でわからない言葉を拾い上げ、辞書を引き、授業に臨まなければならない。自ら学習を進めていく力をどうやって身につけさせるかが今後の課題の一つである。